

西谷会計

平成28年10月号



【所長のDVDコレクションより～テラモーターズ～】

本日紹介するのは、テラモーターズ社長の徳重徹さんです。テラモーターズは電動バイクや電動シニアカーを製造販売する会社で2010年に設立、設立からわずか2年で業界トップとなりました。徳重さんは1970年山口県生まれ。大学卒業後は住友海上火災保険会社に入社しましたが、29歳で退職して起業しています。

徳重さんは、初めから世界市場をターゲットに事業を展開、現在はベトナム、フィリピン、インドに支社を置いています。徳重さんが東南アジアの新興国で現地の会社の社長さんに話を聞くと、皆日本製品が大好きだそうです。でも、日本の大企業は調査には来るけど、その後のアクションが全然ないのだとか。契約するという段になっても、一つの項目を直すのに2か月もかかり、日々発展している新興国とはスピード感が全然違うのだそうです。

一方で、中小企業はリスクも取れるしスピードがある。日本の会社で、日本の製品で、技術力があって、スピード感があって、企業家精神がある代表者本人が現地に行って、リスクを取ってコミットすれば、それが現地の社長にわかってもらえれば、とんとん拍子に話が進むそうです。新興国では、中小企業であっても日本企業は初めから高く評価してもらえるのだそうです。実力100の会社が日本国内では30くらいにしか評価されなくても、海外だと300に評価してくれるのだとか。これは全てソニーやホンダなどの先人が築いてくれた日本に対する信用のおかげだそうです。

徳重さん曰く、コンプライアンスとかルールとか、日本はきれいな国になりすぎているそうです。きれいな川には魚は住みません。昔はみんな腕力でした。戦後の日本の状況が今のアジアの世界、リスクもあるけど面白い勝負ができるとお話しています。

また、徳重さんは、今の大企業から画期的なイノベーションが生じるとは思えないとも言い切っています。中小企業こそがイノベーションを起こすことが出来るそうです。というのも、大企業がイノベーションを起こそうとすると、これまでのビジネスモデルとの間にジレンマが生じるからです。ネット証券は大手の証券会社からは生まれませんでした。デジタルカメラを発明したコダックは、アナログカメラにこだわって倒産してしまいました。ガソリン自動車メーカーはエンジンに人とお金をつぎ込んできました。大企業は、これらの既存のビジネスモデルを全否定することはできないのです。

ゼロから世界へ 《挑戦と志の経営》

情熱とロジックで、電動バイク市場制覇に挑む

徳重 徹
テラモーターズ 社長

創業わずか2年で、
国内シェアナンバー1。
シリコンバレーや明治維新に学んだ、
新参者が既存勢力に
打ち勝つ経営法を携え、
国産バイクが惨敗を続ける
東南アジアへ攻勢開始。
新ベンチャーの雄

日本経営合理化協会

2013年収録

DISC

【所長の本棚より～ブロックチェーンの衝撃～】

本日紹介するのは「ブロックチェーンの衝撃」です。各界の専門家、有識者が様々な視点や角度からブロックチェーンの技術的可能性を書いています。初心者向けのわかり易いところもあれば、専門知識がないとおそらくわからないような箇所もありますが、全体としては非常に楽しめる本だと思いました。

私自身、プログラムの知識など全くないのですが、このブロックチェーンの技術についての可能性については、「おそらく既存の価値観をひっくり返すもの」というイメージを持っています。これまでのサーバーによるデータの集中管理が不要となり、セキュリティやバックアップにかかる膨大な資源の投入が、ほとんどいなくなる世界がここ数年内に到来することになるのだと思います。ビットコインは「仮想通貨」ということで、もっぱら電子マネーとの比較が主でした。しかしながらビットコインの中核技術のブロックチェーンこそが、インターネットが始まって以来の技術革新の本丸になりそうです。

ただ、これを読んで疑問点の一つ。このブロックチェーンの技術を提供するサプライヤーは誰なのかということです。

我々の会計業界もそうですが、これまで会計のシステムを構築してきたベンダーは、皆大型で集中型のサーバーによるビジネスモデルを構築しています。これらのベンダーが、「コストが1/10で済みますよ」もしくは「コストが1/100で済みますよ」といったシステムを自ら構築して販売するのでしょうか。それをすれば、ベンダーのビジネスモデルが崩壊してしまいます。というのも、これらのベンダーは大型で重厚なシステムを販売、保守して稼いだお金で人件費を確保してきました。ブロックチェーンによる「軽い」システムが一般的になると、既存の人員を確保するだけのお金を稼ぐ糧がなくなってしまう。

ということは、ブロックチェーンの技術を売りにするシステム会社は、既存の重厚長大なシステムを販売するベンダーからではなく、新興の会社から出てくるのだと思います。その一方で、実績のない、新興のシステム会社に自社のシステム構築を依頼するのも非常にリスクがありそうです。いずれにせよ、業界地図は、ここ何年かで様変わりしてしまいそうです。



【夏子の部屋～あおもり秋まつ里～】

果物の美味しい季節になりましたね。日中はまだ日差しも強く半袖ですが、朝晩はめっきり涼しくなり過ごしやすいです。こんにちは、桃が大好きな夏子です。さて先日、「あおもり秋まつ里」のオープニングイベントというものに行きまして。

「あおもり秋まつ里」は9月9日から10月9日まで開催されている様です。たまたまポスターを目にしたので行って見ようかな～と思ったのですが、この「秋まつ里」は毎年行われているのでしょうか？

なーんか近年ねぶたが終わっても毎週何かイベントをやっている様な気がしていました。しかも同じ日に数か所で違うイベントが開催されている日もあったりして(それはモッタイナイ！別の日に分散したほうがイイヨ！)秋も賑やかなんですね。

何故オープニングイベントに行ったかというお目当てがありまして、それは「八甲田丸プロジェクションマッピング」です。サブお目当ては「復刻！！青函連絡船食堂メニュー、海峡ラーメン・カレーライス」です。あの八甲田丸にプロジェクションマッピングを行いプラス花火で彩るなんて、ス・テ・キ！昔食べた(であろう)連絡船の食堂のラーメンとカレーライスを又食べられるなんて(良く考えると記憶が無いけど)、ワクワク！

って事で、夜7時からのプロジェクションマッピングを見る為に4時には到着し、まずはいそいそと海峡ラーメン&カレーライスを食べに船内へと入りました。メニューはその2つしか無く、両方注文しました。どちらもワンコインです。食堂には3組のお客さんがいましたがシーンとしています。静か過ぎです。肝心のラーメンは塩味があっさりしていてとっても美味しかったし、カレーライスも素朴で甘く旨かったです。美味しさを色々コメントしレポートしながら食べたのですが、あまりの静けさに日経新聞を読んで過ごしました。

プロジェクションマッピングまでにはまだまだ時間がありましたが、吉田栄作さんのステージを見たりSLを見たりドーナツを食べたりして、その時を待ちました。6時半頃からは、「プロジェクションマッピングを始める時には電気を全て消しますよー、今から場所を確保して下さいー、暗くなるので危険ですから注意して下さいねー。」というアナウンスが数回ありましたが、実際始まってからも終わった時にも全然混乱はなく、見に来ている人のマナーは最高に良かったです。というのも、ねぶた祭りに慣れている青森市民だからではないのかな～と思いました。いや、何となくですけど。

プロジェクションマッピングはと言うと、とてもきれいでした。青函連絡船の複雑な形にピッタリ映像をあわせる所も素晴らしかったです。明るい青森の今と未来を写しだしている様に感じました。

ちなみに「あおもり秋まつ里」のメインイベントは10月8・9日ですよ。「あおもり新井コンテスト」が行われる様です。それも、食べたい！

新を決めるって事は、今の定番のあおもり丼があるって事よね？それは、何丼なんだっけ？

